

## 2.2. 入院患者の転倒・転落発生率

### 算式

$$\frac{\text{【分子】 入院中患者に発生した転倒・転落件数}}{\text{【分母】 入院患者延数}} \times 1000$$

(労災病院グループにおけるインシデント・アクシデントレベル3 a以上の事例に限る。)

### 定義

入院患者の転倒・転落発生割合

### 指標の解説

施設調査より抽出

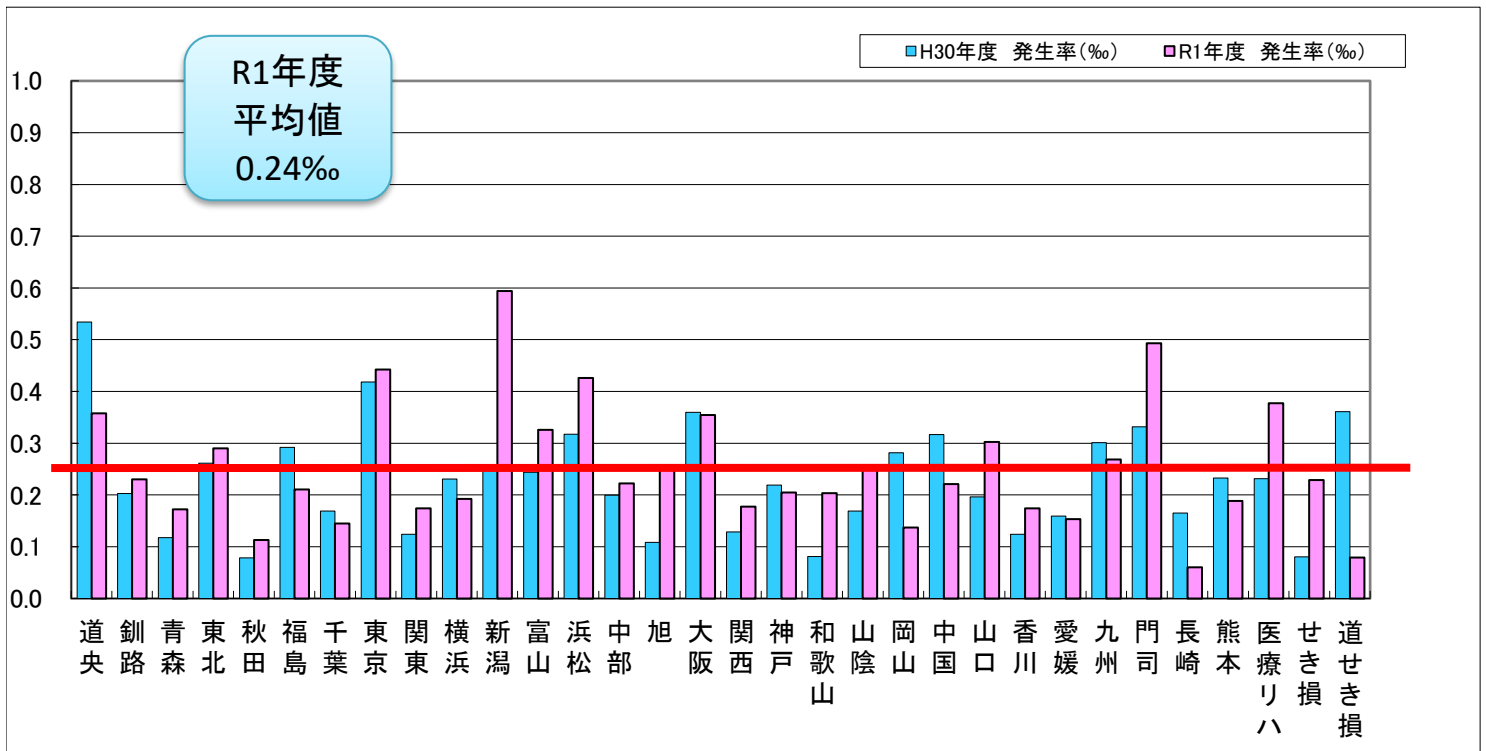
安全で質の高い医療の提供に関して、医療安全対策への取組みについて入院患者の転倒・転落の発生状況から評価する。

インシデント・アクシデント事例の中で転倒・転落件数が最も多く、各病院では医療安全対策の取組みとして転倒・転落のリスクをアセスメントして予防策を立案・実行している。

転倒・転落発生率が低い場合には、転倒・転落予防に積極的に取り組み、またその効果が表れていると評価できる。

※ ‰ = 1000分の1

## 2.2. 入院患者の転倒・転落発生率



No	施設名	H30年度			R1年度		
		分母	分子	発生率(%)	分母	分子	発生率(%)
1	道央	56,180	30	0.53	55,885	20	0.36
2	釧路	133,276	27	0.20	125,929	29	0.23
3	青森	76,596	9	0.12	69,766	12	0.17
4	東北	153,096	40	0.26	141,343	41	0.29
5	秋田	50,810	4	0.08	44,240	5	0.11
6	福島	85,676	25	0.29	99,768	21	0.21
7	千葉	118,169	20	0.17	117,517	17	0.14
8	東京	114,770	48	0.42	115,288	51	0.44
9	関東	177,198	22	0.12	178,257	31	0.17
10	横浜	194,871	45	0.23	192,170	37	0.19
11	新潟	46,511	12	0.26	43,782	26	0.59
12	富山	73,729	18	0.24	76,774	25	0.33
13	浜松	85,086	27	0.32	91,548	39	0.43
14	中部	155,186	31	0.20	153,040	34	0.22
15	旭	73,932	8	0.11	70,857	18	0.25
16	大阪	200,037	72	0.36	194,674	69	0.35
17	関西	194,194	25	0.13	197,148	35	0.18
18	神戸	100,352	22	0.22	92,904	19	0.20
19	和歌山	98,488	8	0.08	98,344	20	0.20
20	山陰	106,577	18	0.17	112,820	28	0.25
21	岡山	102,940	29	0.28	102,357	14	0.14
22	中国	120,008	38	0.32	117,720	26	0.22
23	山口	96,665	19	0.20	95,934	29	0.30
24	香川	128,815	16	0.12	126,370	22	0.17
25	愛媛	56,554	9	0.16	58,583	9	0.15
26	九州	139,528	42	0.30	137,682	37	0.27
27	門司	60,307	20	0.33	60,860	30	0.49
28	長崎	103,029	17	0.17	99,674	6	0.06
29	熊本	128,870	30	0.23	132,510	25	0.19
30	医療リハ	34,545	8	0.23	31,816	12	0.38
31	せき損	49,629	4	0.08	48,069	11	0.23
32	道せき損	38,812	14	0.36	37,807	3	0.08
合	計	3,354,436	757	0.23	3,321,436	801	0.24
平均	500床以上	179,097	39	0.22	176,105	41	0.23
	400床以上	127,545	34	0.26	125,917	32	0.25
	300床以上	97,071	20	0.21	101,207	21	0.21
	300床未満	54,388	12	0.22	54,404	16	0.29